

折に触れ 四字熟語

NO. 278 『光風霽月』 こうふう せいげつ

< 意味 > 心がさっぱりと澄み切ってわだかまりがなく、さわやかなことの形容。日の光の中を吹き渡るさわやかな風と、雨上がりの澄み切った空の月の意から。また、世の中がよく治まっていることの形容に用いられることもある。

< 出典 > 『宋史』^{そうし}周敦頤^{しゅうとんいでん}伝

表 言 : 光風霽月の人柄

用 例 : 昔の仇を夢と見て、今の現に報いんともせず、恨みず、乱れず、光風霽月の雅量は、さすが世を觀じたる滝口入道なり。<高山樗牛・滝口入道>

語 釈 : 「霽」は晴れる意。

一 言 : 昨年の将棋界の話題は、もっぱら藤井翔太の八冠に関わるものですが、女流の中でも大活躍している棋士がいます。西山朋佳三冠が10月28日、「白玲」を奪取し、女王、女流名人、女流王将、白玲の四冠になりました。その西山女流四冠が勝利の心境を書いた色紙が「霽月」でした。お正月を迎えた気分にもふさわしい熟語だと思います。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」